

真田地域協議会 第2分科会 中間報告（平成23年9月）

テーマ：地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備

1 はじめに

第2分科会では、「真田地域まちづくり方針」のうち「4 地域の活性化に向けた交通ネットワークの整備」について協議をしました。交通ネットワークのテーマとしては、

国道144号や406号などの幹線網と日常生活に密着した生活交通網の一体的整備による地域経済の活性化促進

安全で快適な通勤・通学を実現するため、国道144号上野のバイパスの早期整備に向けての積極的取り組み

がありますが、第2分科会の協議主題は上記とし、特に、バス乗客数を増やす事による路線バス維持の方法について話し合いを進めてきました。

2 現状と課題

真田地域に限らず、路線バスは長期的な乗車率の減少による営業赤字に苦しんでいます。赤字のため、減便と料金アップが繰り返され、そのことにより乗車率がさらに減少するという負のスパイラルに陥っている状況があります。真田地域では、平成17年度までは黒字だった菅平高原線も赤字に転落し、最近では赤字幅も大きくなりバス事業者の運営を圧迫している状況です。

上田市では、赤字補填のためバス会社に補助金を出したり、バス路線の空白地域解消のため傍陽線を本原地区に迂回させ乗車率の向上を目指す対策を取っています。しかし、このままでは将来的にバス運行が危ぶまれる状況にあります。そのため、地域を挙げて利用促進策を検討する「真田地域公共交通利用促進協議会」の設立準備が進められています。

3 アンケート調査

地域協議会では、平成22年12月に真田地域全戸を対象とした「路線バスアンケート」を建設課とともに実施し、その結果を検討しました。（別紙1参照）

4 バス路線継続に向けての提案

他地区で実施されている、デマンドバス（予約をして迎えに来てもらう方法）や上田駅周辺を走るオレンジバス等も検討しましたが、山ひだの多い真田地区では不向きで、路線バスの営業を阻害する事も考えられます。やはり路線バスを主体とした公共交通網の維持が望ましいと考え、次のとおり提案します。

（案1）観光客のバス利用を促進する事による維持・発展

真田幸村公大阪城入城400年記念として、署名活動が行われている2014年のNHK大河ドラマ放映が、真田幸村公中心、すなわちこの地域の物語になる事を前提として、大勢の観光客に路線バスの利用を促すため、以下の様に推進していくことが重要と考えます。

菅平高原線の朝と夕方の通勤通学時間帯を除く昼便を観光スポット巡り路線とするとともに、観光客受け入れ施設として「ゆきむら夢工房」を充実

菅平高原線を上田駅から上田城址公園及び村上義清・武田信玄の戦いで有名な砥石・米

山城を回り、自治センター前から御屋敷公園へ迂回し、真田氏本城跡下・長谷寺下・松尾古城跡下を巡り、国道 144 号に戻り菅平高原へ向かう観光路線とする。現在、春・秋のオフシーズンは減便になっているが、少なくとも土日は通年での運行とする。

この路線のバスは、外観も真田の赤備に似せて観光バス風の「真田 & 六文銭」が目立つ色彩とし、夢工房スタッフは観光客のカメラの被写体となるべく、戦国風の着物をユニフォームにする。出来ればバスの運転手さんも忍者風の衣装だと話題になる。上田市観光課職員もそれに準ずれば、テレビの取材等で全国的に有名になり、相乗効果が期待できる。

また、切符は日付入り通行手形とし、真田往復は小判型、菅平高原往復は大判型で、何らかの割引を企画し、バス乗車はお得というイメージを作る(例:大判通行手形を持っていると、菅平高原スキー場リフト券が 1,000 円引き等)

観光客のバス利用促進を考える時、生活交通網の整備という当分科会のテーマとは多少異なるが、観光客を増やす手段としていくつか提案する。

観光スポットにはそんなに長くは留まれないとの考えから、必要に応じ、巡回バスを市側で運営し、ゆきむら夢工房に案内する。夢工房のお土産コーナーには、^{ひのもといち}日本一の規模の真田氏関連グッズを用意するとともに、食事処も充実し(仮称)幸村そば・猿飛うどん等を提供する。2 年後をめどに(仮称)「夏の陣御膳」「六文銭御膳」等開発し、観光の三大要素「観光地を観る」・「お土産を買う」そして「ご当地の食事を食べる」を提供できる夢工房に進化させていく。

さらに長期の視野に立ち、真田にまつわる史実・伝説等を織り交ぜた、楽しめる観光名所看板・カメラスポットとなる十勇士の彫像等の整備・マップ作成を進め、首都圏へ旅行業者を通じた「真田の里巡り」の宣伝活動を推進する。

(案 2) 路線変更による、沿線住民の乗車率を上げる

前述の観光用路線変更を住民に周知する中で、該当する地域住民に、乗ってみようと言う気を起こさせる働きかけ(温泉・医師・薬局・病院・買い物・上田駅・ジャスコ・アリオ・高校)を行う。また、上田駅前・袋町等の飲食店に最終バスの時間を提示してもらい、飲んだ後、バスでの帰宅を促す。なお割増料金でも良いので、深夜運行をバス会社に依頼する。

真田地域から高校への自転車通学者が多いことから、帰りのみ**自転車(持ち込み)OK で乗車可のバス**を走らせ、夕方から夜間の復路に、自転車を持ち込み(外付けラックに掛ける)、最寄りの停留所で降車できるようにする。このことで、帰宅にかかる時間が短縮し時間が有効に活用できること、交通事故の危険性の軽減が図られることを高校生を持つ家庭にアピールする。

料金設定にあたっては、バス事業者による経費算定とともに、高校生対象のアンケートを実施し、乗車運賃に加えてどの程度の自転車持ち込み料であれば利用するかの調査と、各高校の利用しやすい時間帯を把握し運行時刻の検討が必要と考える。

大阪市営の低床バスは身障者用の車いすが少ない負担で乗れるシステムになっている。自転車もこのバスならば乗り入れが可能なので、座席を減らし自転車スペースを設ける等対策を施してはどうか。新車購入費用の捻出に関しては、真田地域住民に新規株の発行を行い充当する。これは、身障者にも優しい交通機関となる。

大阪市営低床バス
低床バス前扉



低床バス中扉



日本中央バスの 自転車積載バスについて

自転車積載バスの車体側面には、このような表示があります。この表示が目印になります。

自転車ラック取付車両



非積載時には通常の座席として利用が可能です。最大5台まで積載することができます。



■ 路線バスを利用しない主な理由について（複数選択可）

「ちょうど良い時間に走っていない」が735件（24.9%）、「運賃が高いから」が566件（19.2%）、「目的地まで運行していないから」518件（17.5%）でこの上位3件で6割を占めています。また、その他で「自家用車の方が利便性が高い」という意見も多く寄せられました。

内 容	回答数	割合
ちょうどよい時間に走っていないから	735	24.9%
運賃が高いから	566	19.2%
目的地まで運行していないから	518	17.5%
目的地まで行くには、他の交通手段との乗換えが必要だから	420	14.2%
その他	389	13.2%
バス停が近くにないから	325	11.0%
無回答	259	—

■ 生活するのに必要な交通の確保や、福祉の充実という視点でバス利用を促進するためにはどうしたら良いか（複数選択可）

「路線バスの通過場所、運賃、時刻等を見直し利便性を高めた方が良い」が750件（26.9%）で、総合的に改善の必要性が高いことがわかりました。

内 容	回答数	割合
路線バスの通過場所、運賃、時刻等を見直し利便性を高めた方が良い	750	26.9%
路線バスの利用補助（補助券等）をした方が良い	485	17.4%
新たに循環バス等を導入した方が良い	442	15.9%
路線バスを廃止し、デマンドバス方式（予約制バス）に変更した方が良い	224	8.0%
路線バスを廃止し、高齢者を対象にタクシー券の配布をした方が良い	258	9.3%
路線バスは廃止になっても仕方がない	116	4.2%
現状のままで良い	250	9.0%
わからない	200	7.2%
その他	61	2.2%
無回答	169	—

■ 真田地域の公共交通の利用促進等について寄せられた主な意見

主 な 意 見	地 区 別				計
	菅平	長	傍陽	本原	
バスの小型化・小型バスに変更する	4	23	28	31	86
時間帯によりバスの大小を使い分ける	5	10	8	21	44
便数が少ない・増便してほしい	1	11	17	14	43
運賃が高い・半額または安くしてほしい	2	9	7	16	34
デマンドバス・デマンドタクシーに変更したらどうか	8	12	5	9	34
循環バス・オレンジバスに変更または導入する	2	10	13	8	33
高齢になり運転できなくなったら利用すると思う	1	3	12	13	29
マイクロバスに変更する	3	7	11	7	28
運行時間見直し・利用したい時間帯に運行していない	5	6	8	7	26
バス停留所の新設・増設	2	2	2	17	23



■ 利用者の声

- 上原バス停ができてとても助かっている
- 存続に向け住民自ら何とかしようと立ち上がる覚悟が必要ではないか？
- 飲み会の帰りに利用できてありがたい。
- 上田駅発の最終便をもっと遅くしてもらえれば...
- 傍陽線が迂回するようになって大変便利になった。通学にとっても助かっている。
- あってもほとんど乗らないけど無いと不便。

- 【下郷沢にお住まいの40代の方】
- 【つくしにお住まいの50代の方】
- 【下原にお住まいの30代の方】
- 【荒井にお住まいの40代の方】
- 【中原にお住まいの10代の方】
- 【横尾にお住まいの50代の方】

結果の詳細、ご意見等については真田地域自治センター建設課までお問い合わせください。（72-4331）（有線 2089）

「真田地域路線バス」アンケート結果報告

乗って残そう!!
路線バス!!



現在、路線バスは利用者が激減し、バス事業者だけの努力では維持することさえ大変難しい状況を迎えております。

このことから上田市と真田地域協議会は、路線バス及び他の公共交通の可能性を検討するための基礎資料として、昨年12月中旬から今年1月中旬まで真田地域の全世帯に対し「真田地域路線バス」アンケートを実施しました。

その結果がまとまりましたので、概要をご報告いたします。

市及び真田地域協議会では、このアンケート結果をもとに、これからの真田地域の路線バスのあり方等について引き続き検討を行ってまいりますので、今後とも皆様のご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、取りまとめにおいて、無回答及び重複回答があるため、集計数値が合致しないものがあります。またパーセンテージについても、小数点第2位を四捨五入してあります。

調査対象	真田地域36自治会全戸（3,541戸）
調査期間	平成22年12月15日から平成23年1月17日まで
調査方法	自治会を通じてアンケート用紙を全戸配布・回収
回収枚数	1,888枚（53.3%）

■ 一緒に住んでいるご家族の年代と人数について

区 分	～19歳	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳～	無回答
人 数	996	477	579	688	948	953	780	632	40
割 合	16.5%	7.9%	9.6%	11.4%	15.7%	15.7%	12.9%	10.4%	—

■ ご家族が路線バスを利用する頻度について

「ほとんど乗らない」が2,410人（48.6%）、「乗ったことがない」が1,864人（37.6%）で、計86.2%の方が利用していない状況であり、存続に向け今後の利用促進が課題です。

内 容	ほぼ毎日	週1～3日	1ヶ月に2～3日	雨・雪が降ったら	ほとんど乗らない	乗ったことがない	無回答
人 数	138	120	305	122	2,410	1,864	180
割 合	2.8%	2.4%	6.2%	2.5%	48.6%	37.6%	—
	5.2%		8.6%		86.2%		

■ 利用者のうち、主にどのような目的で路線バスを利用しているかについて

「通院」が279人（28.9%）、「買物」が229人（23.7%）で半分以上を占めています。また、「通勤・通学の往復」169人（17.5%）と「片道」119人（12.3%）を合わせると288人（29.8%）となります。

（人数（割合））

目的	真田地域内	上田市内	市外	合計
通勤・通学（往復）	30 (3.1%)	121 (12.5%)	18 (1.9%)	169 (17.5%)
通勤・通学（片道）	19 (2.0%)	91 (9.4%)	9 (0.9%)	119 (12.3%)
通院	44 (4.6%)	223 (23.1%)	12 (1.2%)	279 (28.9%)
買物	47 (4.9%)	172 (17.8%)	10 (1.0%)	229 (23.7%)
行楽	9 (0.9%)	48 (5.0%)	27 (2.8%)	84 (8.7%)
その他	6 (0.6%)	74 (7.7%)	7 (0.7%)	87 (9.0%)
計	155 (16.0%)	729 (75.4%)	83 (8.6%)	967 (—)
無回答	65			

■ 路線バス以外で利用している交通手段と、その人数について

「自分で自家用車・バイク・自転車等運転」が3,721人（70.4%）で、約7割の方が路線バスに代わる交通手段を持っています。また、「家族等の自家用車での送迎」は1,095人（20.7%）で、約2割の方が家族等の協力が必要です。一方、「路線バス以外の交通手段がない」は65人（1.2%）おり、今後高齢化、過疎化によって増えることが予想されます。

内 容	人数	割合
自分で自家用車・バイク・自転車等運転	3,721	70.4%
家族等の自家用車での送迎	1,095	20.7%
徒歩	237	4.5%
タクシー・ハイヤー	89	1.7%
路線バス以外の交通手段はない	65	1.2%
福祉バス（ふれあいバス）	51	1.0%
その他	27	0.5%
無回答	79	—